

チリ 2024-25年度のブルーベリーシーズンが始まる

[FreshFruitPortal](#) 2024年10月1日

フルタスデチリ*のブルーベリー委員会は、初めての「ブルーベリーの日」に、2024-25年度のブルーベリーシーズンを正式に開始した。(* チリ果実輸出業者協会(ASOEX)のブランド。対外的に組織名としても使用)

この式典はホルティフルット社のビルケンコ農場で行われ、チリのエステバン・バレンズエラ農業大臣やバーナデット・M・ミーハン駐チリ米国大使をはじめとした業界と関係機関の代表者らが集まった。

会合では、「ブルーベリー委員会所属シール」の立ち上げと、2024-25年度シーズンの予測に影響を与える新品種の栽培の伸びが有望であるという2つの重要な発表が行われた。

同ブルーベリー委員会のルイ・バルボサ委員長が発表した今シーズン最初の推計では、チリの輸出量は前年より3.2%多い13万5,501トンと予測されている。そのうち、8万501トンが生鮮ブルーベリー(6.7%減)で、5万5千トン(22.2%増)が冷凍ブルーベリーである。(以下この項で「」は同委員長の話)

「生鮮ブルーベリーの輸出量が約7%減少したことは、我々にとって悪い知らせではなく、業界で行われている品種の交代を反映している。これにより、より良い生鮮ブルーベリーを市場に届けることができる。今シーズン中の出荷量のうち新品種は26%増加し、1万6千トン以上になると予想される。」

ブルーベリー委員会所属シールについて、バルボサ委員長はそれが国際市場における委員会メンバーの象徴になると述べた。

「これは、市場での我々の位置付けを再構築するためのツールである。このシールは、最善の栽培管理を実施し、市場に良いものが届くよう品種を更新し、市場での差別化をもたらし、日々より良い品質のブルーベリーを提供している委員会のメンバー企業を表している。」

「主な目的は、取引先に信頼と安心を伝えることである。このシールは、チリ産ブルーベリーのイメージを広め、強化するための中心的な要素になることを目指している。」

ブルーベリーの日

フルタスデチリのイヴァン・マランビオ会長は、初めての「ブルーベリーの日」の重要性はチリ産ブルーベリーが世界の注目を浴びることであり、「それによって、チリのブルーベリー産業が持続可能性について、特に新品種の更新、物流チェーンの改善、より優れたより大規模な技術の実装に関連して何をしているのか、また世界のブルーベリー消費量を増やすために何をしているのかを世界に示すことができる」と強調した。(以下この項で「」は同会長の発言)

同会長は、農業大臣と米国大使の臨席と支援に感謝した。「これまで述べてきたとおり、我々は常にバレンズエラ大臣とそのチームの支援を受けてきたので、我々は1つのチームであり、業界としてそのことに感謝している。」

「ミーハン大使が常に示してこられた活動への参加意欲も高く評価している。特に、大使はブルーベリーの約50%を占める主要市場であり、生鮮果実全体の主要な輸出先である米国を代表しておられる。この関係の深さは、本日米国で、当委員会のアンドレス・アームストロング事務局長が、ブルーベリー消費の成長への貢献に対して、米国の北米ブルーベリー評議会から表彰を受けていることでもわかる。」

同会長はまた、チリのブルーベリー生産者がシステムアプローチを国内の新しい地域に拡大したいという願望を表現する機会を逃さなかった。「システムアプローチがニュブレ州とビオビオ州で4シーズンにわたって成功裏に実施された後、オイギンス州とマウレ州に拡大できることが極めて必要である。」